

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	共生型： 放課後デイサービス ガネーシャ		
○保護者評価実施期間	2025年1月15日		～ 2025年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2025年2月26日		～ 2025年3月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	共生型なので、コミュニケーション能力が向上する。 小さな集団の中で、お友達、高齢者、職員と関わる中でその大切さを学べる。各行事も一緒に行う。	高齢者との交流機会の提供、季節に合わせた行事、イベント、外出行事などを年間行事に取り入れて実施している。	それぞれの活動内容の写真を、定期的に保護者様にLINEにてお伝えしていく。
2	個別・集団・小集団での活動	生活空間が1階から3階まで利用可能なので広く活動できる。日々のプログラムは一つにしぼらず、子どもたちが活動を選択できるように支援している。個別活動(療育)や小集団での活動(制作等)、集団(ゲーム・カラオケ等)を通して、多様な体験が出来るよう支援している。	個々の要望に応えた支援をできるように検討していく。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	朝のミーティングでの支援内容の共有や事務連絡等が難しい	通所介護との共生型であり、高齢者の朝の送迎があり、又、勤務形態や他職種の業務内容の違いから朝のミーティングに参加できない職員がいる。1日通してのサービス提供時間になるため、ミーティング時間を取ることが困難である。	共通事項のもらえないように申し送りノートやICTツール等を活用する。また、職員同士も密にコミュニケーションが取れるような雰囲気づくりに努める。
2			
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 共生型： 放課後デイサービス ガネーシャ

公表日

2025年 3月 12日

※この「[公表]事業所における自己評価結果」は各職員の自己評価を踏まえて事業所全体で行った自己評価です。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		建物の構造上完全なバリアフリー化は難しい。必要場合は職員が階段の上り下りを補助し、安全への配慮を心掛けている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃、消毒を行い、常時、空気清浄機を稼働し、冬場は加湿器を設置している。活動スペースは1階～3階まで多目的に使用できる。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		1階～3階までのスペースが利用できるので個別の部屋や場所を提供できる環境となっている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		定例のミーティングで議題にあげ共有している。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年一回保護者に対し評価アンケートを実施し、取りまとめたものを職員間で共有して改善案を出し合っている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			引き続き意見の出しやすい仕組みづくりと風土を築くことで職員ミーティングでの意見交換を充実させ、業務改善に努める。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者による外部評価は現在実施していない。今後実施を検討していく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修に参加し、社内でフィードバックを行い、全職員に共有できるようにしている。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		AI分析を導入している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		情報共有を行うと共に、職員が計画を確認できるようにしている	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		AI分析を参考にし、個々に適切な支援内容を設定している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	支援終了後は職員がそろわない為、翌日に行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリングは原則6ヶ月に1回行い、その結果に応じて支援計画を変更している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		日々の療育プログラムに加え、自由な時間に子どもたちにやりたいことを聞き、それに合わせた活動を取り入れている	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	現時点では施設同士での情報共有はないが、保護者の方からの聞き取りや書面での記録をもとに成育歴を知り、それを踏まえた支援を行うよう努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		現時点では事例はないが、今後対象者が発生した場合はこれまでの支援内容等の情報提供を行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	直接的な連携はないが、研修や講演が開催される時は積極的に参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		今後検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		参加機会があれば積極的に参加する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		家族支援としてご相談等の話をする機会を設けている		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		契約時に本人や保護者の方のご要望を聞き、それに基づいた支援を行うよう努めている。また、面談時に新たなご要望等あれば、それに合う支援を検討している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		面談時に支援内容の説明を行い、その場で質問等を受け、回答している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		家族支援を積極的に行っており、声かけも定期的に行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		アンケートより参加できるご家庭が少ない結果、現在は、交流する機会を設けていない。今後要望があれば検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		契約時に苦情に関する相談窓口を案内し、適切な対応ができるように努めている。重要事項説明書に苦情窓口について記載している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		主にLINEを使用し、行事予定や活動概要を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報が記載されている書類等はすべて鍵付きの書庫に保管している。廃棄書類等はシュレッダーを使用し廃棄している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		状況に応じて視覚支援等を用いて情報の伝達を行い、意思の疎通ができるよう努めている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		今後検討する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルをいつでも閲覧できるように事務室内に掲示している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	すべての子どもについて、アセスメントを通じて全員の食物アレルギーの有無を確認している。アレルギーのあるものは完全除去をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時、面談時に非常時の対応について説明、確認を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部研修に参加しその内容について職員にフィードバックしている。職員ミーティングにて内部研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約時に身体拘束についての説明を行い、ご納得いただいた上で契約を交わしている。重要事項説明書にも身体拘束について記載している。		